

# 図書室だより 11月号

平成27年11月5日  
梶原学園図書室発行

秋も深まり、ずいぶん寒くなってきました。みなさん、体調管理は大丈夫ですか？9月、10月は行事が次から次へとたくさんあって、忙しい毎日でしたね。そんな疲れた頭と体と心を『読書』で癒しませんか？背中に日差しをうけながら、ほっこり読書・・・なんていかがでしょう。

～ おすすめの本 …… TVドラマ化・映画化された原作本です。～



『掟上今日子の備忘録』

著者・西尾 維新

掟上今日子・・・またの名を忘却探偵。すべてを一日で忘れてしまう彼女は、事件を(ほぼ)即日解決！あらゆる事件に巻き込まれ、常に犯人として疑われてしまう不遇の青年・隠館厄介は今日も叫ぶ。「探偵を呼ばせて下さーい！！」スピーディな展開と、忘却の儚さ。果たして今日子さんは、事件の概要を忘れてしまう前に解決することができるのか？



『西の魔女が死んだ』

著者・梨木 香歩

「西の魔女」とは、中学生の少女・まいの祖母のこと。学校へ行けないまいは、田舎の祖母のもとで魔女修行をすることに・・・。魔女修行とは、意志の力を強くし、何事も自分で決めること。そのための第一歩は規則正しい生活をするという地味なものだったが、次第にまいの心は癒されていく。魔女はいう。「自分が楽に生きられる場所を求めたからといって、後ろめたく思う必要はありませんよ。サボテンは水の中に生える必要はないし、蓮の花は空中では咲かない。シロクマがハワイより北極で生きるほうを選んだからといって、だれがシロクマを責めますか。」そしてまいは、この「西の魔女」から決定的なメッセージを受けとるのだった……………。



『神様のカルテ』

著者・夏川 草介

栗原一止は信州にある「24時間、365日対応」の病院で働く内科医である。ここでは常に医師が不足している。専門外の診療をするのも、3日睡眠をとれないことも日常茶飯事だ。妻、ハルに献身的に支えられ、経験豊富な看護師と、変わり者だが優秀な外科医の友人と助け合いながら、日々の診療をこなしている。

そんな栗原に、母校の医局から誘いの声がかかる。大学に戻れば、休みも増え愛する妻と過ごす時間が増える。最先端の医療を学ぶこともできる。だが、大学病院や大病院に「手遅れ」と見放された患者たちと精一杯向き合う医者がいてもいいのではないかと・・・悩む一止の背中を押してくれたのは死を目前に控えた高齢の癌患者・安曇さんからの思いがけない贈り物だった。

## 読書週間 (10月27日～11月9日)

終戦まもない昭和22年、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと開始され、今年で69回目です。

最近では、電子メディアの発達により情報の流れが変わり、活字離れ、読書離れが進んだと言われています。

今年の標語は、『いつだって、読書日和』です。みなさんがお気に入りの本に出会い、読書が習慣になりますように……。



## お願い

借りたまま忘れてしまっている本はありませんか？

なかなか返ってこない本があります。今一度、確認をお願いします。

